

出逢い 感動

団長 熊坂 栄太郎

思い出

志村 美枝

長いようで短い一週間でしたが、このわずか一週間のために、昨年より「ちびっこ」十五名と共に準備をして来ました。

三月二十四日、都倉市長、高部友好委員会々長をはじめ、大勢の方々に励まされて元気に市役所を出発し、「第二回ちびっこ海外使節団」はヘンダーソンビル市へ向けて出発しました。十九名の団員とともに過ごした一週間は、私にとっても素晴らしい出逢いと感動の連続の日々でした。それは、ヘンダーソンビル市においてハンク

トンプソン市長、ベッティ友好委員長、ヘンダーソンビルJCL理事長、そして四日間のお世話をしてくださったホストファミリーの皆さんなど数えきれない程、多くの方々の情熱的にかつ献身的に係わって戴いたお陰であるとともに、それを素直に受けとめる団員個々の意欲的行動があったことによるものと思います。わずか四日間の滞在を終え、ヘンダーソンビル市の皆さんと別れる場面では、一人ひとりの目から涙が流れていたことが今も鮮明に想い出されま

す。言葉や人種、文化の違いはあっても感動と感謝の思いは「人間」として同じであることを「ちびっこ」十五名の胸に残せたことは今回の事業が成功したことと確信しています。

「第二回ちびっこ海外使節団」に対しまして深いご理解ご支援を戴きました市長、市関係者の皆さま、友好委員会々長、理事の皆さまそして先輩諸兄、ご父兄の皆さまに心より感謝申し上げますとともに、今後も両市の友情がさらに深まることを願います。



ハンク・トンプソン市長に出迎えられる



ヘンダーソンビル市の子どもたちと楽しく おり紙

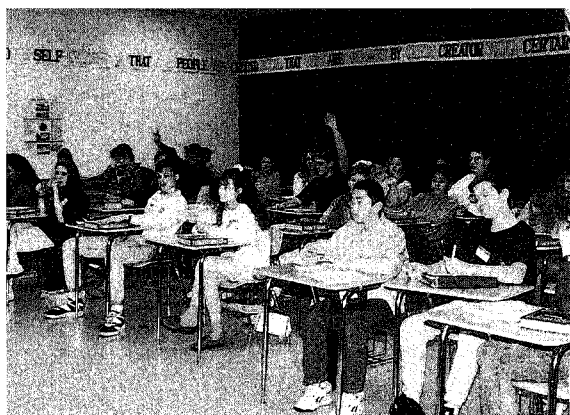
三月二十四日。いよいよ出発の時間となり、この日本をさよならしていくのです。期待と不安がおしよせてきながら、「無事に帰ってきて。」

市の代表。いや日本の代表としてがんばってきたい」と強く感じてきました。

「HELLO!!」もう、ここはアメリカ合衆国です。十五時間という長い時間飛行機に乗ってやってきました。空港には、もうヘンダーソンビル市の人たちがむかえにきてくれてとても感激しました。

翌朝、ヘンダーソンビル市に着きました。ヘンダーソンビル市は人口も、面積も都留市とあまり変わりません。緑の木々にも囲まれ湖もあり、水が豊かな所も都留市とに違います。小高い山がないので、家と家との間もスペースがのんびりしていました。

ホームステイ先の人たちは、「おなかはずいではない?」とか、「シャワーをあびる?」など、親せつにしてくれ、とても感謝しています。親せつにしてくれるのは、ホームステイ先の人たちだけではありません。私たちは、高校、中学校、小学校と訪問して行きましたが、どの人たちも、日本語を使おうとしてくれたり、



ちびっこが参加した授業風景

案内もしてくれて、とても親せつにしてくれました。私も、だれにでも親せつにするように心がけたいです。本当にこのヘンダーソンビルに来てよかったと思います。学校の先生も来てみたがっていた学校も訪問し、さらにホームステイを体験し、英語が大切なこともわかったし、マナーなど数々のことを学び、とてもうれしく思い、よい思い出となりました。これも、市や友好委員会の皆さん、熊坂団長をはじめ、都留JCL皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。これからは、この経験を生かし、何事にもチャレンジして行きたいと思っています。